



いつもいつまでも、100年後も地域に愛される
「暮らしの舞台」としての公園

た ま が わ の げ ま ち

玉川野毛町 パークらぼ

玉川野毛町パークらぼコンセプトブック

区、区民が話し合いを通して取りまとめた、協働で進める公園運営の指針



玉川野毛町公園 周辺マップ

Tamagawa nogemachi Park
Area Map



玉川小

谷沢川

東急大井町線

等々力駅

権蔵橋公園

中町
どんぐり
緑地

ゴルフ橋

玉川IC

野毛公園前

玉川野毛町
公園

野毛大塚
古墳

拡張
予定地

等々力
渓谷公園

第三京浜道路

野毛二丁目
緑地

丸子川ひろば
公園

野毛二丁目
公園

野毛二丁目
さくら公園

野毛青少年
交流センター

野毛図書室

六所神社

善養寺

日本庭園

等々力
不動尊

御岳山古墳

多摩川橋

多摩川

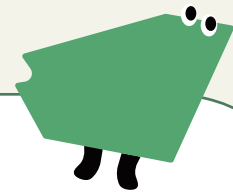
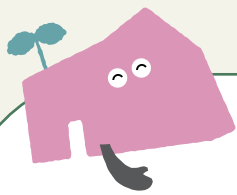
丸子川

玉堤小

等々力大橋



4p .. 玉川野毛町パークらぼとは	24p .. 住民協働組織の設立
6p .. これまでの住民協働のあゆみ	26p .. 公園のかたち
10p .. こんな公園にしたい 理想の公園像16	30p .. 生まれたプロジェクト
16p .. 玉川野毛町パークらぼの住民協働の行動	34p .. 住民協働で進める新たな公園のあり方
18p .. 区の役割、区民の役割	38p .. ヒストリー
20p .. みんなにとって理想的な公園であるために 心がけること	40p .. 活動履歴全記録
22p .. 玉川野毛町パークらぼとはどんな活動？	42p .. 後書き



世田谷区立玉川野毛町公園とは

世田谷区立玉川野毛町公園は昭和31年(1956年)に都立公園として開園し、昭和40年(1965年)に区へ移管されて以来、長年にわたり、みどりのオープンスペース及びレクリエーションの場として地域区民に親しまれてきました。

また、近隣に位置する等々力溪谷公園は、東京23区唯一の自然溪谷であり、自然景観を求めて多くの利用者が来訪しており、玉川野毛町公園内に位置する野毛大塚古墳とともに散策経路として親しまれています。

玉川野毛町公園と等々力溪谷公園の間には、広大な面積を有する国家公務員宿舎がありましたが、当該宿舎の廃止に伴い、跡地の一部(約2.8ヘクタール)を利用して、玉川野毛町公園を拡張整備し、既存のみどりの保全と公園機能の拡充を図ることとしました。それが、「玉川野毛町パークらぼ」の舞台です。



玉川野毛町公園

拡張
予定地

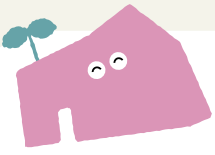
等々力
溪谷公園





About

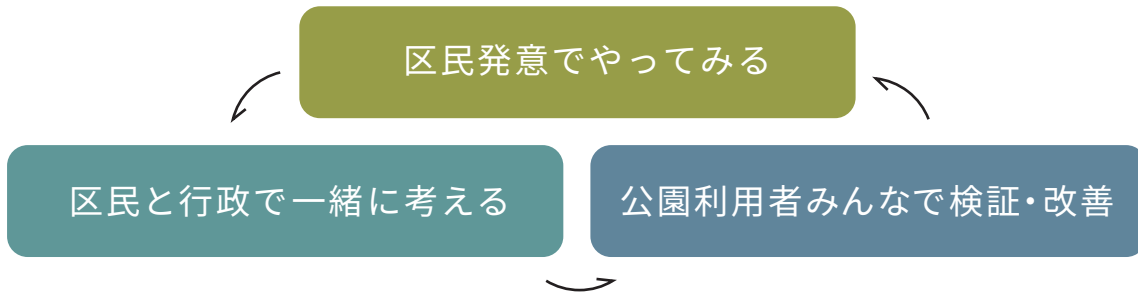
玉川野毛町パークらぼ とは



「玉川野毛町パークらぼ」とは



「玉川野毛町パークらぼ」は100年後もより良い公園を目指して、社会の時勢にあわせ、日々試行錯誤しながら区民と事業者、世田谷区で協働の公園運営にあたる取り組みです。



玉川野毛町パークらぼの検討サイクル

玉川野毛町公園拡張事業は区民との協働による公園づくりを進めてきました。区民とのワークショップなどの意見交換や現場見学会や、アンケート等を踏まえ、玉川野毛町公園基本計画を令和3年(2021年)5月に策定しました。策定後、公園予定地を私たちの暮らしの舞台としてどう豊かにつかうか、みんな(区民や事業者、世田谷区)で試行錯誤しながら公園を育てていく取り組みをチャレンジすることとしました。

設計をとりまとめるため、区民発意の活動を実際にやってみて、活動から設計に反映させ、広く区民と設計を共有し、計画の改善を継続的に繰り返し行うことで、質の高い公園の設計を取りまとめることができました。

設計とりまとめ後、開園を見据え、区民の公園運営への参画のあり方についても、繰り返し意見交換を行いました。

その結果、区民主体による組織を発足することとなりました。

「玉川野毛町パークらぼ区民の会」の発足

玉川野毛町パークらぼ区民の会は、玉川野毛町公園及びその周辺地域において、世田谷の先人たちを育んだ豊かなみどりと歴史・文化を区民の手で大切に育み、100年後も地域に愛される公園を目指し、発足しました。みんなで一緒に試行錯誤しながらつくっていく、という新しい公園を実現すべく、区民にできる、地域に根ざした実践的活動を推進し、玉川野毛町公園及びその周辺地域を活動エリアとして、世田谷区や事業者との協働による公園運営に参画する区民組織です。

A photograph of a person wearing a blue long-sleeved shirt, light-colored pants, and a wide-brimmed hat, pushing a green wheelbarrow filled with several white bags. The person is walking on a path through a lush green forest with large trees. The scene is captured from a low angle, with the foreground dominated by out-of-focus green leaves and branches.

Prologue

これまでの 住民協働のあゆみ

玉川野毛町公園拡張事業 住民協働のあゆみ

公園づくりのはじまり

世田谷区では令和元年(2019年)9月に玉川野毛町公園拡張事業の住民協働による公園づくりをスタートしました。参加者からは、「拡張される公園は、どんな公園になり、どんな利用がされるか不安」という意見があり、区民と区でどんな公園にしていくか積極的に話し合いを行いました。



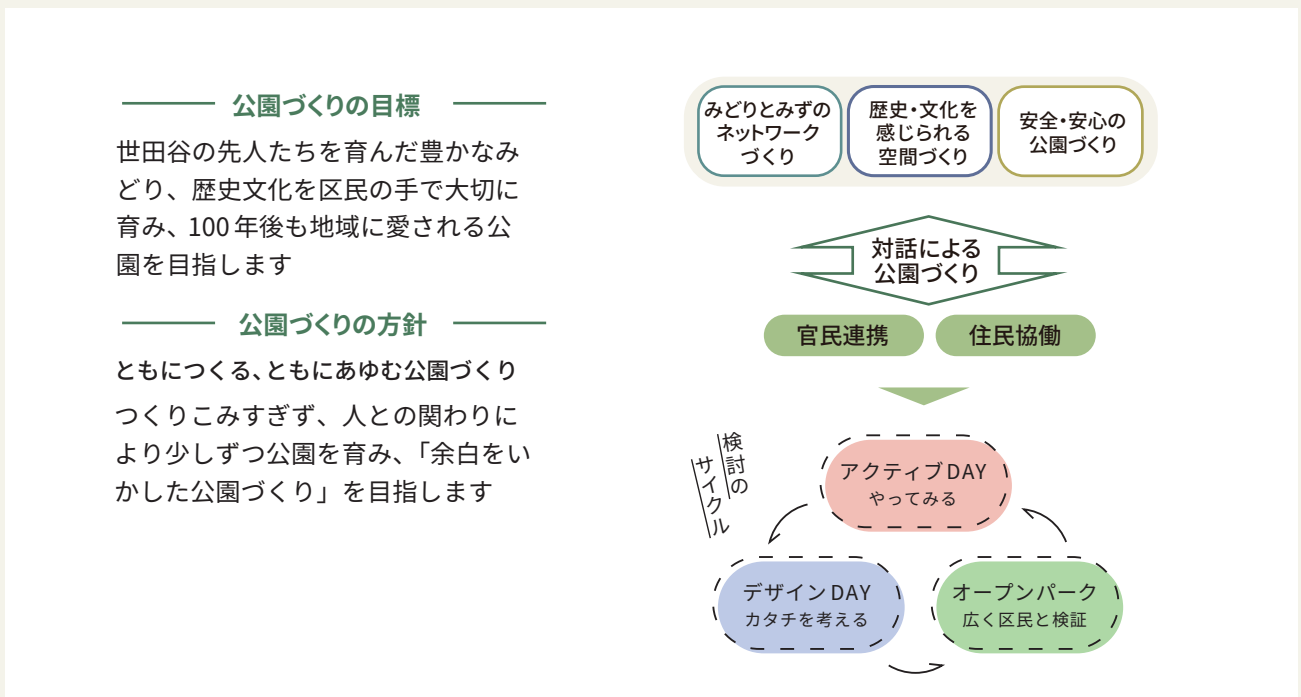
協働の公園づくりを考える
シンポジウム

目指すべき姿

100年後も地域に愛される公園を目指し、玉川野毛町公園の古墳をランドマークとする公園づくりとし、活発な活動のできる玉川野毛町公園（既開園区域）をいかしつつ、官舎跡地の拡張予定地の大きな樹木や貴重な草地を尊重した公園とすることとしました。また、コロナ禍も経て、時代とともに柔軟に変化できる公園の重要性に気づきました。区民が主体的に関わり、地域とのつながりを持ち、私たちの暮らしの舞台としてどう豊かに使うか。つくりこみすぎず、人との関わりにより少しずつ公園を育み、余白をいかした公園づくりを進めていくこととして、世田谷区では基本計画を策定しました。

区民主体の公園づくりへのチャレンジ

どのように公園づくりを進めたら、私たちが目指す公園づくりができるか考え、区民発意の取り組みを実際に現地で行い、試行錯誤しながら公園の設計や運営に反映させていくことにしました。令和3年(2021年)9月、未来の余白を考える新しい公園づくり「玉川野毛町パークらぼの取り組み」がスタートしました。拡張予定地を将来の公園に見立て、実際に区民発意の活動をやってみる「アクティブDAY」と設計を考える「デザインDAY」を検討の両輪に据え、「オープンパーク」で公園予定地を広く一般開放し、活動の試行やデザインや取り組みの検証などを行い、住民協働で公園の質をより高めていくこととしました。



公園のカタチづくりから、組織づくり・仕組みづくりの検討へ

玉川野毛町パークらぼの取り組みを踏まえ、令和5年(2023年)2月に基本設計書を策定しました。

公園のカタチづくりの検討を経て、公園運営に区民が参画するための組織づくりや仕組みづくりに取り組んでいます。



これまでの公園、これからの公園

これまでの公園では、行政が専ら公園の中で行われることに責任を持って決まり事を決めてきました。しかし、ここ玉川野毛町公園では、行政だけで物事を決めるのではなく、地域区民の主体的な関わりを前提に新しい公園づくりの手法を目指すことになりました。

玉川野毛町公園の拡張整備について話し合いがなされる中、「主体的に公園づくりに参画できる仕組みづくりがしたい」という地域区民からの意見に区が応え、住民協働による公園づくりがはじまったのです。ただ、みんなで作るからと言って、ただ様々な要望を取り入れつくったところで、それがいい公園になるとは言えません。みんなの思いや知恵を出し合い、実際に活動し対話を重ねることで、ひとりではできない化学反応が起き、だんだんと大切にすべきものが共有されて「これからの公園」の輪郭が見えてきました。

先に決まったことがあってそれに従うのではなく、決めるべきことを活動と対話を重ねながら模索していくという、新しい公園への関与のあり方を公園づくりのフェーズで経験してきました。

公園の基本計画には「100年後も愛される公園」を目指すことが明記されました。100年後の誰かの笑顔を想像して、これからも、決まったルールがないことを楽しみながら玉川野毛町パークらぼの活動と議論を続けていきます。



令和5年(2023年)2月18日開催(第10回デザインDAY)のグラフィックレコーディングより

Vision

こんな公園にしたい
理想の公園像16

「理想の公園像16」ができるまで

令和3年(2021年)から「こんな公園にしたい」「こんな活動があるといいな」といった思いから、試験的にまずは「活動をしよう!」と始まったパークらぼのアクティブDAY。活動して1年が過ぎた頃、さまざまな疑問や課題が出てきました。

「今は玉川野毛町公園拡張予定地として暫定利用中だからこの活動が自由にできているけど、将来、公園になったらこの活動は続けることができるの?」とか、「皆で取り組んでいるこの活動や思いを将来完成する公園にどうやったら継承できる?」とか、「開園すると、多くの方々が自由に利用するので公園利用や玉川野毛町パークらぼの運営を考えていかななくてはいけないね」とか...

そういった疑問や課題から、私たちは、公園の秩序をより良い状態に保ち、公園を育てていく「しくみ」をみんなで考えつくっていく必要性を感じ、デザインDAY(令和5年(2023年)1~3月の計3回)で、『しくみのデザイン(玉川野毛町パークらぼのしくみづくり)』について話し合いを重ねました。

また、同年6月からは、それらをさらに発展させて『コンセプトブック編集会議』がスタート。12月までの計5回で“こんな公園にしたい、理想の公園像”や“私たちができること、役割”についての話し合いをワークショップ形式で取り組みました。アクティブDAYで継続して取り組んできた、各プロジェクトの活動を通して見えてきた、大切にしたい価値観を、「理想の公園像16」に発展させ、まとめることができました。



玉川野毛町公園拡張事業基本計画において規定された「公園づくりの考え方」は公園づくりにおける住民協働の骨子です。コンセプトブックの「理想の公園像 16」と基本計画における公園づくりは、以下のような関係があります。



基本計画	理想の公園像
<p>公園づくりの目標</p> <p>世田谷の先人たちを育んだ豊かなみどり、歴史文化を区民の手で大切に育み、100年後も地域に愛される公園を目指します</p>	<p>01 いつもいつまでも、100年後も地域に愛される公園</p>
<p>公園づくりの方針</p> <p>ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり</p> <p>持続性</p> <p>参加性</p> <p>挑戦</p> <p>交流</p> <p>学び</p> <p>余白・ウェルネス</p> <p>個人の尊重と公正な公園の実現</p> <p>みどりとみずのネットワークづくり</p> <p>歴史・文化を感じられる空間づくり</p> <p>安全・安心の公園づくり</p>	<p>02 住民協働で運営する公園</p> <p>03 ワクワク感がある公園</p> <p>04 子どもが大切にされる公園</p> <p>05 さまざまな機会がある公園</p> <p>06 深い関わりができる公園</p> <p>07 チャレンジができる公園</p> <p>08 交流がある公園</p> <p>09 学べる公園</p> <p>10 誰にとっても居心地がいい公園</p> <p>11 余白がある公園</p> <p>12 自由な公園</p> <p>13 豊かな自然を感じる公園</p> <p>14 人が環境を育み、環境が人を育む公園</p> <p>15 地域性、歴史を感じる公園</p> <p>16 災害時に役に立つ公園</p>



対話による公園づくり



官民連携・住民協働

理想の公園像 16

私たちはワークショップでの意見交換を重ね、この「理想の公園像 16」を共有しました。この16の理想像の実現を通して、私たちの「暮らしの舞台」としての「公園」が育つとともに、私たち自身の暮らしも豊かになりウェルビーイングの取り組みにつながるものと考えています。

それぞれの活動やその活動を支える仕組みが理想の公園像の実現につながるものであること、あらゆる関係者がこの理想の実現のためにたゆまぬ努力を行うことが望まれます。

01 いつもいつまでも、100年後も地域に愛される公園



循環と持続可能性を重んじ、時代の変化に適應するために常に余白を持ち、愛着がある主体的な人々の熱意で世代を超えて支えられる公園

02 住民協働で運営する公園



行政が関与する公的な財産である公園をより良いものにするために、区民が積極的に関与して、主体性を持って行政と協働して運営する公園

03 ワクワク感がある公園



自分が関わる余白があることにワクワクしたり、偶発的な出会いや新たな気づきが得られることにワクワクし、多様な利用者がいつも行きたくなる公園

04 子どもが大切にされる公園



都市の子どもの健全な育成のため、子どもが思いきり遊べて、子育て世代にも優しい公園。世代を超えて愛される公園であり続けるために子どもを重んじる公園

05 さまざまな機会がある公園



公園で得られる偶発的な機会だけではなく、さまざまな参加機会がある公園。玉川野毛町公園にふさわしい、さまざまな「やってみたい」にも機会がある公園

06 深い関わりができる公園



玉川野毛町公園では区民は公園利用者であると同時に、公園の運営関係者でもある。区民の主体的な参画のために、さまざまな参加レベルがある公園

07 チャレンジができる公園



やってみなければわからないことがある。実現を恐れ何もしないのではなく、まず実施してみて、参加者でその成果を共有し次に繋げる公園

08 交流がある公園



さまざまな参加のレベルがあり、気軽に参加できる交流の場がある公園。子どもも大人も居場所があり、結果として地域の知り合いが増える公園

09 学べる公園



公園利用者が公園で地域のことや自然環境について学べるだけではなく、公園の取り組みに参加することで区民が学び、学びを通して成長する公園

10 誰にとっても居心地がいい公園



世代や性別、属性を問わず、さまざまな過ごし方ができ、多様な居心地が提供される公園。人だけではなく、自然にとっても居心地がいい公園

11 余白がある公園



作り込みすぎず、参加を許容する余白があり、みんなを受け止められる公園。常に、未来を見据えて余白を用意し続け、完成されないことのない公園

12 自由な公園



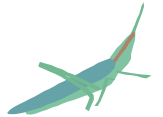
さまざまな過ごし方が許される自由があるとともに、さまざまなやりたいを表現できる自由があり、やりたい人を支える公共の場としての公園

13 豊かな自然を感じる公園



世田谷の「みどりの生命線」である国分寺崖線や等々力溪谷の緑とのつながりを踏まえ、動植物の生育環境が整えられ、維持し続けられる公園

14 人が環境を育み、環境が人を育む公園



人が手を入れることでより調和された良い環境を育み、また環境が維持される公園。また、その環境がさらに関わる人々に学びと成長の機会を与える公園

15 地域性、歴史を感じる公園



ここでしかできない体験を通して、地域の魅力の実感につながる公園。地域の歴史の蓄積はもとより、地域の人々の未来に対する集合意思を感じる公園

16 災害時に役に立つ公園



災害時に地域に役に立つ公園であるために、地域のつながりを創出し、日常から防災につながるような取り組みがおこなれ、自治的な防災活動に寄与する公園



Action

玉川野毛町パークらぼの 住民協働の行動

玉川野毛町公園の理想の公園像を実現させるために、区民は行政とともに主体的に行動し、利用者としての目線と管理者の目線をともに持ち、次に掲げる行動を行います。

公園で自発的な活動を行います

公園づくりで行ってきたアクティブDAYの区民発意の活動を継続し、公園の利活用を促進します。

合意形成を目指して対話をします

あらゆる主体と住民協働の公園づくりで行ってきたデザインDAYでの対話を引き継ぎ、継続します。

組織づくり、組織運営を行います

公園の管理運営に参画する組織として、区民意見を広く反映する運営を目指します。

共有する価値観に基づき、活動し、対話し、評価します。

理想の公園像を実現するという共有する価値観を大切にします。

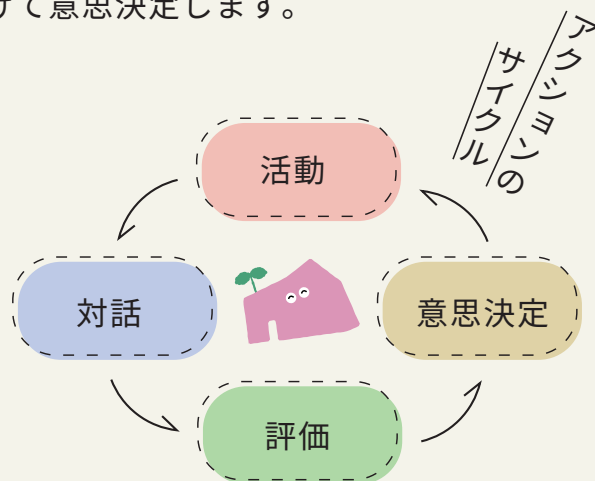
情報発信を行います

玉川野毛町パークらぼの取り組みへの理解や公園の魅力の伝達のため、情報発信を行います。

玉川野毛町パークらぼアクションのサイクルを回します

活動、対話、評価、を通して、未来に向けて意思決定します。

活動、対話を元に、活動を支える組織づくりを行い、理想の公園像が実現する未来に向けて各メンバーが努力を行います。





Our Role

区の役割、区民の役割

区は、管理者として、だれもが安全で安心して心地良く公園で過ごせるよう、植栽管理や利用調整など公園の維持運営にあたっています。

玉川野毛町パークらぼは、主体的かつ実験的な住民協働の取り組みとして、この地域の大切な財産である公園の魅力づくりに貢献する役割を担います。

利用者の視点を持った区民が公園管理運営に関わることで、身近な暮らしの舞台としてより良い公園の在り方を追求していくのが、玉川野毛町パークらぼの役割です。

区と区民が一緒に「創る」公園

人との関わり・学び

豊かな自然とつながれる

自然環境と歴史文化を守り伝えたい

楽しめる活動

区の公園管理（維持運営）

- 巡回 ● 植栽管理 ● トイレ清掃
- 利用指導・利用調整 ● 要望・緊急対応
- 門扉開閉 ● 公園使用許可
- 広場管理（清掃、除草、草刈、花壇管理）
- 樹木管理（刈込、剪定、伐採、植付）
- 施設点検、修繕
（遊具、ベンチ等、給排水、電気）

自然の遊び

学べる

草地から森まで多様なみどりをみんなで作る

子どもから大人まで憩える

災害時に役立つ

安心して訪れることができる

身近な暮らしの舞台の実現

地域が
つながる

期待される効果

豊かな自然とつながる

楽しみひろがる

安全・安心

人との関わり、人の成長

歴史・文化を感じられる空間

みずとみどりのネットワークの形成

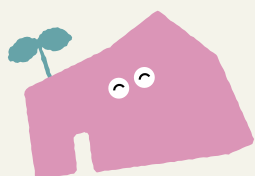


Our Thoughts

みんなにとって
理想的な公園であるために
心がけること

行政との連携協働で、公園の魅力向上の取り組みに参画する区民には、責任があります。私たちはこの責任を果たすために、以下のことを心がけることとしました。

- | | | | |
|---|--|----|--|
| 1 | 活動が大切です
活動があることが大切です | 9 | 多様性に対する理解が大切です
他者への理解を深めて、多様性を受け入れます |
| 2 | 対話が大切です
合意形成を目指して行う対話が大切です | 10 | 余白を残すことが大切です
物理的だけではなく、あらゆる余白を確保します |
| 3 | 参加しやすいことが大切です
さまざまな参加方法を確保します | 11 | 公平であることが大切です
公平さを意識してのぞみます |
| 4 | 自由を守ることが大切です
制約あるなかで
最大限自由を重んじます | 12 | 未来を見据えることが大切です
未来を見据えた活動を行うこととし、
持続可能な活動とあらゆる物事の
循環に配慮します |
| 5 | 地域への奉仕の心が大切です
地域や公共の価値向上につながる
活動を心がけます | 13 | 寛容であることが大切です
機会を活かす側ばかりではなく、
機会を提供する側になり、
寛容であります |
| 6 | チャレンジが大切です
チャレンジ精神を応援します | 14 | 主体的であることが大切です
自らの主体的な関与に重きを置きます |
| 7 | 学びが大切です
公園で得られるさまざまな学びを
大切にします | 15 | 情報発信が大切です
活動内容をわかりやすく伝え、
透明性を高めます |
| 8 | 日常が大切です
日常の公園利用を大切にします | 16 | 連携・つながりが大切です
多様な主体との連携・つながりを
大切にします |





玉川野毛町パークらぼとはどんな活動？

Noと言わずに、聞いてみよう

玉川野毛町パークらぼの活動で新たな“やりたい”が生まれた時、どうやったら実現するかを共に考えるところから始めます。

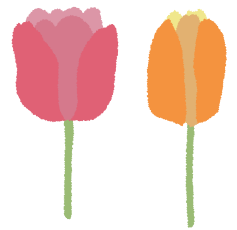
実現に向けては、公園であることの特性を踏まえて、正直言ってハードルはあります。もしかしたら実現は不可能という結論になるかもしれません。ですが、課題を解決するために何をすればいいのか、どのような信頼関係を構築すればいいのか、ある日いきなり解決する話ではないかもしれませんが、少しずつ積み上げながら実現に向けて前向きに取り組みます（公園管理者も交えて）。

その労力を惜しまない人たちが参画するのが、玉川野毛町パークらぼの取り組みです。

公園づくりにゴールはない

玉川野毛町公園拡張事業では、物理的に公園が拡張するだけではなく、多次元の拡張が起きていると言えます。「有形資産」としての公園だけではなく関係性やコミュニティなどの「無形資産」ができていくことであるとも言えます。

作り込みすぎず余白があるということも、公園づくりの当初から共有されてきた理想像です。あれもこれも実現させればいいわけではなく、取り入れず、作り込まないギリギリの「余白」を持ち続けることで、持続可能で100年後も愛され続ける公園になるのです。



体感し、対話しながら作っていく

会議室だけではなく、現場で体感しながらつくっていく活動が、パークらぼの特徴です。失敗したらその時は皆さんとまた考えればいい。チャレンジしても他の人が迷惑と感じたならすぐに対話し、修正するのが玉川野毛町パークらぼ。

公園づくりにおいて活動と対話を通して築いてきた関係性は、フィードバックのプロセスによるもの。開園後も、限りある公共の財産である公園をシェアしたり使い方を話し合うことで、自然と区民同士の交流が生まれ、気づきから成長意欲などさまざまな無形資産を作ります。



今だけでなく、100年先の未来も想像して活動する

玉川野毛町公園のエリアには、縄文時代前後からの人の営みがありました。古墳時代の痕跡は公園の特徴ある空間を形成し、国家公務員の宿舎に植えられた植物たちが育ち、今の環境の一部を担っています。今私たちの選択が、過去の歴史におけるこの地域の区民の選択とも繋がっているし、将来の区民の選択にも大きな影響を与えることにもなるのです。

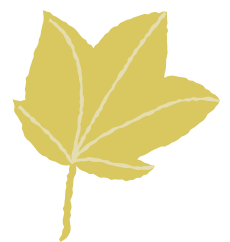
時間をかけることは今や貴重です。歴史があるエリアだからこそ、長い目でみてどうかという視点を持ちながら、新しいチャレンジと対話を行なっていきます。



みんな違ってみんないい

異なる関心事を持った他人が集まった取り組みですが一人一人の違いを尊重して輪を作っているのが玉川野毛町パークらぼの取り組みです。異なる意見を言い合う会議だけではなく、それぞれが、いろんな人の活動を見て理解することが共感につながるのです。

理解し、共感することで、多様性について理解し、対話を通して合意形成を目指し、包摂的な視点で運営する活動が、玉川野毛町パークらぼの特徴です。



Park Cooperative Organization

住民協働組織の設立

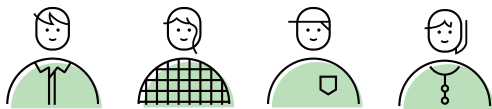


区民の会の宣言文

私たちは、玉川野毛町公園の周辺住民や公園利用者です。これまで日々公園を利用し、身近に感じてきました。

令和7年(2025年)の拡張計画に際して、私たちはこの公園が世田谷の特色ともいえる豊かなみどりや歴史・文化を大切にし、子どもや孫の代まで愛される公園であってほしいと想っています。そして、これまで世田谷区など対話や活動を通じて、すこしずつではありますが玉川野毛町パークらぼの取組みに共感の輪を拡げてきました。そのような公園を実現するためには、従来のような行政に運営を任せきりにした公園ではなく、関係者に対して開かれた公園運営であるべきと考えます。公園は地域住民、利用者、行政共通の大切な資産だからです。

環境や資源、文化など野毛町地域の特色を活かした取組みを実施するなど、主体的な活動や地域の活性化に繋がる催しが可能になり、利用者一人一人が生き生きとした時間を過ごせる公園を皆さまと一緒に作っていきたいと思っています。どうぞ皆様にもご賛同いただきますようお願いいたします。



※この宣言文は、令和5年(2023年)5月21日の準備会設立段階での宣言文を掲載しています。



Design

公園のかたち

玉川野毛町パークらぼの活動を支えるとともに、地域に愛されつづける公園を目指し、「公園のかたち」について大切にしていることを取りまとめました。

既開園区域と風景がつながる
「みどりのエントランス」



古墳や拡張予定地と風景がつながる
「古墳前広場」



デザインコンセプト - グリーンウェーブ -

多様な活動の波が公園からまちに広がる

3つの波が公園からまちに広がっていくという思いを込めて「グリーンウェーブ」というコンセプトとしました。

古墳や微地形、樹木がかたちづくる
立体的なみどりの波

多摩川や等々力溪谷、国分寺崖線
がつくる地形の波

多様な活動を支える大地の波



← アクティビティと連動するみどりのグラデーション →





樹木や地形、園路がかたちづくる
多様な活動を支える「草地の広場」



既存のみどりをいかし生きものの拠点となる
森づくりを行う「濃いみどり」



デザインコード

人と自然が主役となる公園施設のデザイン

玉川野毛町公園は、等々力溪谷公園ともつながるみどり豊かな公園に生まれ変わることを機に、公園を私たちの暮らしの舞台として人と人との活動や自然が主役になる場所としました。100年後も地域に愛される公園を目指し、全体として調和のとれた公園とするためデザインコードを取りまとめました。

公園づくりの目標

100年後も地域に愛される公園を目指します

公園づくりの方針

ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり

公園づくりの整備方針

みずとみどりのネットワークづくり
歴史・文化を感じられる空間づくり
安全・安心の公園づくり

デザインの方針

シンプルで質の高いデザイン

人の関わりを育むデザイン

デザインの視点

自然環境との調和

景観軸や古墳との関係に配慮

人にやさしい

シンプルで質の高いデザイン

- ・ 100年後も地域に愛される公園を目指し、時代を超えて親しまれるデザインとします。
- ・ つくりこみを感じさせず環境と調和し、高質な公園デザインとします。
- ・ シンプルですっきりとした形状とするなど、主役となる公園を支える建築デザインとします。



デザインの視点

配置 既存の大きな樹木をいかに周辺環境に配慮した建築や施設の配置とします。

自然環境との調和

- ・ 富士山への軸線を確保した配置。
- ・ 古墳や既存大径木への視線に配慮。
- ・ 周辺のみどりとの関係に配慮した配置。

ランドマークとなる樹木

- ケヤキ、エノキ、ムクノキ、コナラ
- サクラ
- イチョウ
- ヒマラヤスギ



景観軸や古墳との関係に配慮

- ・ 古墳との関係に配慮したひきの空間を確保。
- ・ 古墳に抜ける視線に配慮した施設配置。



形状

自然環境になじみ、誰にとっても使いやすいデザインとします。

自然環境との調和

- ・ 園路の配置は、植栽や舗装パターンにより、エッジが柔らかく自然になじみ、みどりを近くに感じる設えとします。
- ・ 曲線を基調とした園路とし、自然になじむ線形とします。



透水性コンクリート舗装



平板舗装

柔らかく自然になじむ舗装のエッジ

人にやさしい

- ・ ゆとりある幅員（1.8m以上）の確保や勾配を緩く、段差をなくすことで、高齢者や車いす利用者など誰もが利用しやすい園路とします。
- ・ 園路周辺の見通しを確保し、安全に配慮した死角の少ないデザインとします。
- ・ 施設の形状は、世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例施設整備マニュアルに基づいた施設デザインとします。



公園施設の配置や素材、形状、照明について、デザインコードをまとめました。



人の関わりを育むデザイン

- 様々な活動や利用を想定し、柔軟かつ連続的な利用が可能な屋外スペース、屋根下、建築空間をデザインします。
- 森づくりやコミュニティーガーデンなど区民が育む余地を残した公園デザインとします。
- 人のかかわりにより草地や樹林地などのみどりの風景をつくるデザインとします。



様々な利用や活動を支える公園のデザイン

素材 みどりの風景になじむ自然素材を基調とした製品を選定します。

自然環境との調和

人にやさしい

- 自然環境への調和や人にやさしい素材として木材などの自然素材を使用します。
- コンクリートなどの外壁材を使用する場合は、縦リブやはつりなど環境になじむ仕上げとします。



天然木材



天然木材



縦リブの表面仕上げ



はつり仕上げ

photo : Hiroshi Ueda

- 金属や樹脂系の素材は、目立たず主張しない黒色など彩度の低い色を採用し、自然環境になじむ設えとします。
- 照明やボラードなどモノの形は、主張しないシンプルな形状とします。



シンプルで目立たない製品

- 舗装材は、自然環境との調和に配慮し、彩度が低く明度が高いグレー系やベージュ系の色とします。
- 天然骨材や自然素材を基調としたシンプルで主張しない素材を採用します。



天然骨材



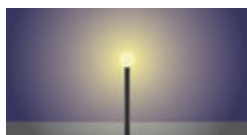
自然石

照明 周辺住環境や生きものに配慮した配光や暖かみのある色温度の照明を採用します。

自然環境との調和

人にやさしい

- 近隣住戸や樹林地の生物の生息環境に配慮し、不要な漏れ光が少なく、必要な明るさを確保するメリハリのある配光とします。
- 樹林内などには調光タイプを採用し、時間や季節による光の調整を検討します。
- 色温度が3000 K以下の電球を採用し、暖かみのある雰囲気演出する光とします。



漏れ光が多い



漏れ光が少ない



暖かみのある色温度





Projects

生まれたプロジェクト

令和3年(2021年)9月に玉川野毛町パークらぼが始動し、活動に関する自由で活発な意見交換がスタートしました。こんな公園にしたい！こんな活動があれば！自分たちの手で公園づくりに携わっていきたい！地域に根ざして、公園だからできること！ワークショップで考えた7つのテーマをもとに発展して生まれた様々なプロジェクトを紹介します。

開園後は、これらのプロジェクトのいくつかが、玉川野毛町パークらぼの活動における「らぼプロジェクト」として発展し継続されることが期待されます。



身近な防災を考える

暮らしの安全や安心に役立つ公園。例えば、災害時・震災時の公園の役割は？いざという時に自分たちは公園とどう関わったら良いのだろう。身近な暮らしの中から公園の果たす防災の役割を考え、体験的に伝える活動をしています。

ユニバーサルデザインを考える

障がいがある方々もない方も、老若男女誰でも一緒に活動できる玉川野毛町パークらぼでありたい。障がいのある方々と共に実際に拡張予定地を巡り活動参加も行いながら、玉川野毛町公園らしいユニバーサルデザインのあり方を考えました。

青空ヨガ

健康づくりにつながるプログラムとして実施中！みどりあふれる木陰で、黄金色のイチゴの絨毯の上で、拡張予定地の中に季節ごとに居心地が良い空間を探して、自然を感じながら実施しています。



どんぐりプロジェクト

拡張予定地に唯一残った、どんぐりを落とすコナラの木に集い、苗木の育成と植樹、選択的除草・間伐等を行なっています。若い木と多様な生きものが生まれ、子供が虫を追いかけ、循環型の暮らしと共にある雑木林を都会に蘇らせる活動をしています。

地域のつながりとニーズを考える

拡張予定地にある果樹などの自然の恵みを活用し、食を通じて自然に親しみ、地域の交流の輪を広げていくことを目的に活動。拡張予定地で収穫した夏みかんを使ったレシピづくり、银杏炒りの体験など、大人も子どもも一緒になって楽しみました。

おそとあそびの日

世田谷区の地域子育て支援コーディネーターさんの協力で開催しているおそとあそびの日は、0歳から未就園までのお子さんご家族を主な対象に、地域の読み聞かせや親子体操のボランティアグループにも協力をいただいて公園での子育て支援を実践しています。



キッズパーク

子どもたちが自然に親しんで自由に遊びを生み出せる遊び場を実施しています。生き物調査、暮らしのウェルネスなどのプロジェクトとも連携し、拡張予定地だから出来る様々な体験と学びの場を子どもたちと楽しんでいます。



公園水循環を考える

水性生物のいる公園の水辺づくりに向けて拡張予定地の持続可能な水辺空間をつくることを目指して活動しました。等々力渓谷との関係性もふまえて、水生生物が暮らすことのできる水辺空間の役割や機能について考え、提案を行いました。



公園の利活用、ルールを考える

毎日の暮らしの中にある公園のあり方や使い方を、近隣の暮らし手の視点も交えて考え、将来の公園のルールづくりにも生かしていきます。設計者と一緒に計画を確認しながら拡張予定地や既に開園している公園を歩き意見交換も行いました。



お絵かきで学ぼう

拡張予定地の伸び伸び育った樹木や植物を見つけて絵を描き、地域の自然を学ぼう！子どもたちを対象に、紙とペンを持ち、自由な発想で自然とアートを結びつけて楽しんでいただく企画を実施しました。



生きもの調査

対話を通して自然から多くのことを学びたい！という思いで活動しているチームです。拡張予定地内の生きものを定期的に観察・記録し、時には専門家をお呼びして自然に関する学びの会も企画しています。



パークラン

「走ること」、参加者同士の「コミュニケーション」、時には「国際交流」の楽しみも兼ねて、国分寺崖線の地形や湧水、古墳や渓谷を巡るランツアー。公園を起点に等々力渓谷や周辺エリアの魅力を感じます。

7つのテーマ

令和3年(2021年)9月に拡張予定地で行なった玉川野毛町パークらぼのオリエンテーションで出た多様な意見をもとに活動のテーマを7つにまとめ、参加者がそれぞれが関心のあるテーマに集まって話し合い、活動を立ち上げました。

暮らしのウェルネス~安全・安心、健康~/みどりやみず-NATURE/nogemachi ヒストリー~古墳時代から未来へ/公園の日常づかいを考える/子どもと一緒に!育てて・遊んで・学ぼう/世田谷らしい食と交流を考える/イベント・アート・エンターテイメント



チーム循環／身近な公園を拠点とした地域循環を考えよう

家庭の生ごみのコンポストを活用したガーデン活動や、集まった皆さんの知恵や技をシェアするワークショップを行っています。小さな循環をぐるぐる回すことで、公園が地域の循環型コミュニティのハブとなることを目指しています。



野毛町大塚古墳、周辺遺跡などのガイドウォーク

野毛大塚古墳、拡張予定地、等々力溪谷と続く類まれな地形と歴史を持つこの土地。その魅力を余すことなく伝えるために、豊かな知識と経験を持つボランティアガイドが中心となって活動しています。



ホップ・ステップ・ジャンプ / エコベジタブル

拡張予定地の葛(くず)をつかったリースづくりや新聞紙を使ったエコトートバックをプレゼントなどのワークショップ開催を通じて自然とエコの楽しみ方を伝えました。



動物ふれあい

玉川野毛町公園らしさを大切にしながら、動物とのふれあいを区民と楽しむための活動をしています。実際に拡張予定地にヤギを呼んだ体験も通じて、今後の公園での動物とのふれあいのあり方と良好な場作りを模索しています。



Interview

ヤギから始まる イトセトラ



ヤギの実験は「やってみる」ことの大切さを改めて気づかせてくれました。ヤギの活動をリードする玉川野毛町パークらぼメンバー大山さんにお話を聞きました。

“

玉川野毛町パークらぼの活動に参加したのは割と遅かったのですが、私のやってみたいという気持ちに事務局が話を聞いてくれて、スタートしました。活動にこぎつけるまで紆余曲折がありましたが、やってみて気付かされたことがたくさんありました。今ではヤギの活動を見て、私もやってみようと思っていただける人が出てきたのは嬉しいこと。研究職の私にとって失敗はつきもの。安全は最優先ですが、失敗を恐れずチャレンジすることを通して、身近な公園の環境をよくしていきたいです。

”



Partnership

住民協働で進める 新たな公園のあり方

玉川野毛町公園では、拡張事業を通して、新たな公園のあり方にチャレンジしています。

それは、これまで行政任せにしてきた公園の管理運営の一部を区民も担うことで、今までにない公園を目指そうということが前提となっています。



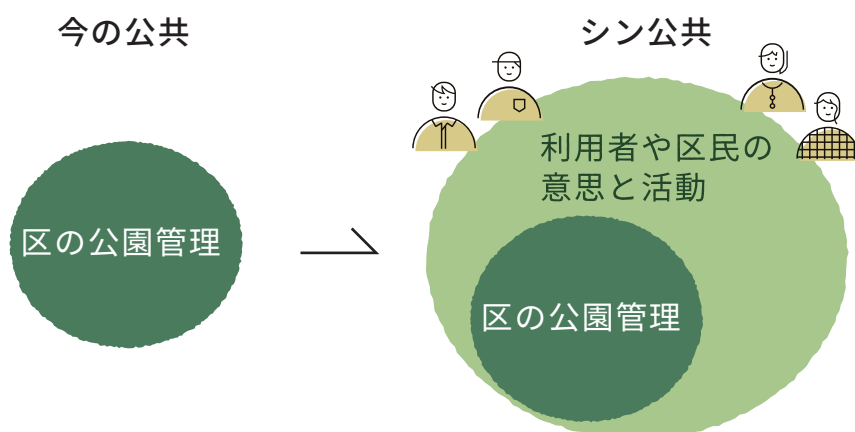
玉川野毛町パークらぼの 活動の前提

公共財である公園は、あらゆる区民の福祉の向上を目的として作られているため、これまでは特定の誰かだけが利することにならないように配慮されてきました。

利用者の一般的な公園利用については配慮しつつ、その他の活動については規制を設けてきたため、結果として創発的な活動が起こることを制約してきたと言えます。

一方で、公共のあり方は時代の要請に合わせて変化していくもので、従来の公園管理では変化に対応しにくいという課題がありました。

行政に任せ、行政が行える範囲のこれまでの「公共」の範囲を超えた、付加的な「新しい領域の公共」を魅力として創出していくためには、区民の意思と責任ある行動が不可欠です。



玉川野毛町公園では、行政だけが決めるものではなく、利用者や区民の意思^{*}を踏まえ、これまで公園づくりを行ってきました。公園を運営するフェーズにおいても、行政がこれまでの規制を緩和し、行政にできる範囲を超える、この地域ならではの「新しい領域の公共」を担う「住民協働で進める新たな公園のあり方」にチャレンジすることとなりました。

*玉川野毛町公園拡張事業においては、公園の基本設計を策定するワークショップの中で、区民から魅力的な公園づくりを行うために、公園の運営に主体的に参画するという明確な意思がありました。

公園を住民協働で運営するための前提とは

公園であるということ

区民も行政も、住民協働の取り組みを通して公園の価値を高め、公共の福祉の増進に資することを目的としています。

公共財である公園で行うことを前提としているので、公園でなくてもいい活動や公園で行うことで悪影響が発生するものは活動として望ましくありません。どのような活動が公園にふさわしいのかについては、行政と区民が対話を通して学び、理解を深めていくことが必要です。

活動があること

区民による“活動があること”を前提としています。

区民、世田谷区の立場

区民組織である玉川野毛町パークらぼ区民の会のメンバーは、公園利用者だけではなく、公園運営者の立場を持ちます。公園の運営に関わるためには、運営者としての心構えが求められます。

世田谷区も、玉川野毛町パークらぼの活動を協働し推進する立場と、公園管理者の立場を持ちます。

住民協働で公園を円滑に運営するためには、それぞれの立場を理解することが必要です。

対話による合意形成を目指す

対話を通して相互の立場を理解することを通して、合意形成を目指すことを前提としています。

区民も利用調整の役割を担う

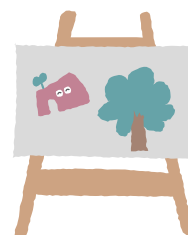
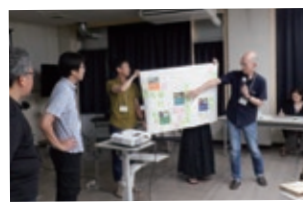
行政のサポートはありながらも、区民同士による利用調整のために、十分な対話が行われることが理想的な状況であるとしています。

トライアルを前提としている

試行的な取り組みが許容されます。トライアルの結果を相互に真摯に受け止め、次に繋げることを前提としています。

それぞれの立場を越える

玉川野毛町公園に関わる区民と行政の立場は必ずしも同じではありません。お互いの立場を理解した上で、協力して進めることが前提となります。



History

ヒストリー



基本計画の検討

基本

2018

平成30年度

2019

平成31年度

2020

令和2年度

2021

令和3年度

区民参加による公園拡張計画の方針検討

公園のカタチ・デザ

新型コロナウイルスによる社会変容

基本計画[骨子]
とりまとめ(2月)

キックオフ
シンポジウム(9月)

基本計画の策定(5月)

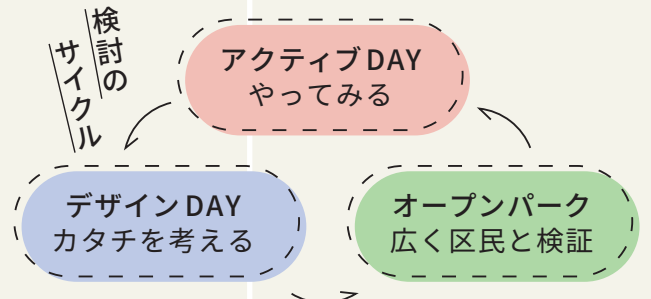
初の現場見学会
(7月)

コロナ禍(12月～)による中断を
経てワークショップ4回実施

協働の公園づくり
玉川野毛町パークらぼ
スタート!(9月)



[現場見学会]



[宿舎解体]



[ワークショップ]



[基本計画図]

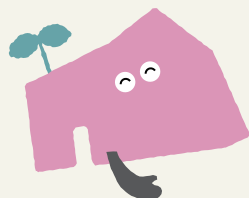
数字で見る
玉川野毛町パークらぼ

延べ参加者人数

13,913名

玉川野毛町
パークらぼ登録数

318名



現代 — 玉川・田園調布の区画整理 ↓ ゴルフ場 ↓ 内務省所有地 ↓ 国土交通省等々力宿舎

古墳時代 — 4世紀末から5世紀初め頃に野毛大塚古墳がつくられる

旧石器時代 — 約3万5千年前に世田谷最古の人々が国分寺崖線沿いに生活の痕跡を残す



設計の検討

設計・工事

一部開園

開園

2022
令和4年度

2023
令和5年度

2024
令和6年度

2025
令和7年度

インの検討

開園に向けた組織や仕組みの検討

プレ運営

本運営

拡張準備工事

第1期拡張工事

第2期拡張工事

基本設計の策定(2月)

キックオフミーティング(5月)

活動から設計へ反映
・区民発意の取り組み

区民参加の公園運営を考える
・玉川野毛町パークらぼ
推進準備会設立
・規約、コンセプトブックの作成
・区民の会設立

区民参加の公園運営の実践
・区民の会始動



[デザインDAY]



[アクティブDAY]



[区民の会]



[基本設計
- 将来の整備イメージ]



[玉川野毛町パークらぼ
推進準備会の設立]



[コンセプトブック]

生まれた
プロジェクト

16 コ

アクティブDAY
開催延べ日数

79 日

デザインDAY
開催延べ日数

19 日

オープンパーク
開催延べ日数

13 日

活動履歴全記録



- 平成29年(2017年)2月 玉川野毛町公園の都市計画変更(拡張計画の決定)
- 平成29年(2017年)6月 国土交通省等々力宿舎解体工事着手
- 平成30年(2018年)3月 国土交通省等々力宿舎解体工事完了
- 平成30年(2018年)5月 **玉川野毛町公園拡張事業基本計画「基本的な考え方」策定**
- 平成30年(2018年)7月 現場見学会(初)
- 平成30年(2018年)9-11月 民間活力導入に関するサウンディング調査
- 平成31年(2019年)2月 **玉川野毛町公園基本計画(骨子)策定**
- 令和元年(2019年)9月~ **シンポジウム(区民と協働の公園づくり)**
現場見学会(2回)、ワークショップ(4回)
「拠点となる施設」への民間活力導入に関するサウンディング調査
- 令和3年(2021年)5月 **玉川野毛町公園拡張事業基本計画策定**

令和3年度 (2021年)

- 7月30日(金) **プレオープンパーク**
- 7月31日(土) **プレオープンパーク**
- 住民協働の公園づくり「玉川野毛町パークらぼ」スタート!**
- 9月17日(金) **オリエンテーション(取り組みについて考える)**
- 9月26日(日) **オリエンテーション(取り組みについて考える)**
- 10月9日(土) **アクティブDAY**
- 10月23日(土) **デザインDAY(活動とデザインのマッチング)**
- 11月7日(日) **アクティブDAY**



(2022年)

- 11月26日(金) **デザインDAY/オープンパーク**
- 11月27日(土) **デザインDAY/オープンパーク** } 玉川野毛町公園ならではの公園デザインのポイントを
現地で空間体験しながら共有
- 12月5日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 12月9日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 1月13日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 1月16日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 1月22日(土) **デザインDAY(対話型ワークショップ)**
- 2月6日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 2月26日(土) **デザインDAY(公園デザインの共有)**
- 3月6日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 3月10日(木) **アクティブDAY/公園開放日**



令和4年度

- 3月25日(金) **オープンパーク** } 区民の皆さまと検討してとりまとめた
基本設計(検討案)のパネル説明と模型展示
- 3月26日(土) **オープンパーク**
- 4月3日(日) **アクティブDAY/公園開放日** ※雨天順延した3月26日オープンパーク活動体験の一部実施
- 4月14日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 5月1日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 5月12日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 5月15日(日) **オリエンテーション**
- 5月26日(木) **オリエンテーション**
- 6月5日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 6月9日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 6月11日(土) **デザインDAY(公園デザインの確認)**
- 7月2日(土) 住民協働の管理・運営に向けての話し合い(活動を通しての課題や今後の方針)
- 7月3日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 7月14日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 7月29日(金) **オープンパーク** } アンケート調査や意見交換を踏まえた
詳細な公園設計内容をパネル展示
- 7月30日(土) **オープンパーク**
- 8月6日(土) **デザインDAY(建築機能を考える)**
- 8月7日(日) 住民協働の管理・運営に向けての話し合い(玉川野毛町パークらぼで大切にしたいこと)
/ **スペシャルアクティブDAY/公園開放日**
- 9月4日(日) **アクティブDAY/公園開放日**
- 9月8日(木) **アクティブDAY/公園開放日**
- 9月11日(日) 住民協働の管理・運営に向けての話し合い(玉川野毛町パークらぼと公園との関係)



- (2023年)
- 9月22日(木) 夜、秋鳴く虫を聞く会
 - 10月1日(土) デザインDAY (建築デザインの共有)
 - 10月2日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 10月13日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 11月6日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 11月10日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 11月25日(金) オープンパーク } 建築物のかたち、大きさ、間取りなどを
 - 11月26日(土) オープンパーク } 実寸大で現地に表して空間体験
 - 12月4日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 12月8日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 12月15日(木) 住民協働の管理・運営に向けての話し合い (これからのしくみのデザイン)
 - 1月8日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 1月12日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 1月15日(日) デザインDAY (組織・活動のコンセプト)
 - 2月 **玉川野毛町公園拡張事業基本設計策定**
 - 2月3日(金) 大きな樹木の移植見学会
 - 2月4日(土) 大きな樹木の移植見学会
 - 2月5日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 2月9日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 2月18日(土) デザインDAY (組織・活動の作法[ルール])
 - 3月5日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 3月9日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 3月11日(土) デザインDAY (区民主体の組織の立ち上げ)
 - 令和 3月31日(金) たんぼぼ観察ツアー
 - 5年度 4月1日(土) たんぼぼ観察ツアー
 - 4月2日(日) アクティブDAY / 公園開放日 / 桜の挿し木ワークショップ
 - 4月13日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 4月21日(金) オープンパーク } 準備工事で行った主要な材木の移植、
 - 4月22日(土) オープンパーク } 造成の仕上りを空間体験
 - 5月7日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 5月11日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 5月21日(日) **キックオフミーティング (住民協働の公園へ)**
 - 6月4日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 6月8日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 6月10日(土) デザインDAY (コンセプトブック編集会議 / 玉川野毛町パークらぼ推進準備会)
 - 7月2日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 7月13日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 7月15日(土) デザインDAY (コンセプトブック編集会議 / 玉川野毛町パークらぼ推進準備会)
 - 8月5日(土) デザインDAY (玉川野毛町パークらぼを伝える-コンセプトブックを考える)
 - 8月6日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 9月3日(日) アクティブDAY / 公園開放日 / 桜の挿し木ワークショップ
 - 9月9日(土) デザインDAY (コンセプトブック編集会議 / 玉川野毛町パークらぼ推進準備会)
 - 9月14日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 9月28日(木) 夜、秋鳴く虫を聞く会
 - 10月1日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 10月12日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 10月14日(土) デザインDAY (コンセプトブック編集会議 / 玉川野毛町パークらぼ推進準備会)
 - 10月14日(土) スペシャルアクティブDAY / 公園開放日
 - 11月5日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 11月9日(木) アクティブDAY / 公園開放日
 - 11月17日(金) オープンパーク } 整備工事途中の園路や広場などの
 - 11月18日(土) オープンパーク } カタチや位置を空間体験
 - 12月3日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 12月9日(土) デザインDAY (コンセプトブック編集会議 / 玉川野毛町パークらぼ推進準備会)
 - 12月14日(木) アクティブDAY / 公園開放日

(2024年)

 - 1月7日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 2月4日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 2月10日(土) デザインDAY (柔軟な使い方ができる家具・備品のあり方を考える)
 - 3月3日(日) アクティブDAY / 公園開放日
 - 3月10日(日) 玉川野毛町パークらぼ区民の会 設立総会



後書き



私たち玉川野毛町公園に愛着を持つ区民は、令和元年(2019年)9月以来、公園拡張計画に区民の声を取り入れてきた世田谷区および協力事業者の方々とともに、議論を重ね、公園を生かす様々な活動を試みてきました。そして皆の思いはこう集約されてきたと感じます。この地の自然と古墳の歴史を受継ぎ、自然の健全な営みを壊すことなく人が創造力を発揮するライフスタイル実践の舞台として、100年後に良かったと思える公園を目指す活動をしていきたいと。このコンセプトブックは、そんな4年半の積み重ねの集大成です。令和6年(2024年)3月、拡張予定地の開園を前に、今までの活動継続に加え、公園運営への区民参画という新しいチャレンジも盛り込んだ区民の会を発足させました。微力であっても地域にできることを、扉を開いて皆様のお力添えを頂きながら、また地球と人の未来に思いを馳せながら、一つひとつ行っていきます。

玉川野毛町パークらぼ区民の会

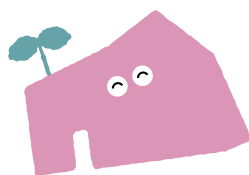
玉川野毛町公園拡張事業の検討、玉川野毛町パークらぼコンセプトブックのとりまとめにあたりご参加いただきました皆様には、ひとかたならぬご支援、ご尽力、改めまして御礼申し上げます。

世田谷区では、玉川野毛町パークらぼ区民の会の皆様をはじめ、多くの区民や事業者と協働し、引き続き試行錯誤しながら、地域に愛される公園運営に取り組んでまいります。

世田谷区







玉川野毛町公園拡張事業 協働の公園づくり 玉川野毛町パークらぼ

事務局 メール: parklab@nogemachi-parklab.com
電話: 070-3165-7750 (平日 10:00~16:00)



ホームページ



インスタグラム

www.nogemachi-parklab.com

発行日: 令和6年(2024年)3月

発行者: 玉川野毛町パークらぼ区民の会、世田谷区

※無断転載禁止